

復興庁男女共同参画班は、2022年9月10日～2023年1月10日の間、岩手県及び岩手県男女共同参画センター主催、「2022年度いわて男女共同参画サポーター養成講座」及び「2022年度いわて男女共同参画の視点からの復興・防災に関する研修会」の一環として、【震災からの仕事づくり・場所づくり～共生ホームを通じて～】を開催しました。

◆ テーマ：震災からの仕事づくり・場所づくり
～共生ホームを通じて～

講師：東梅 麻奈美（とうばい まなみ）氏
特定非営利活動法人ワーカーズコープ
大槌地域福祉事業所
地域共生ホームねまれや 所長

◆ 概要

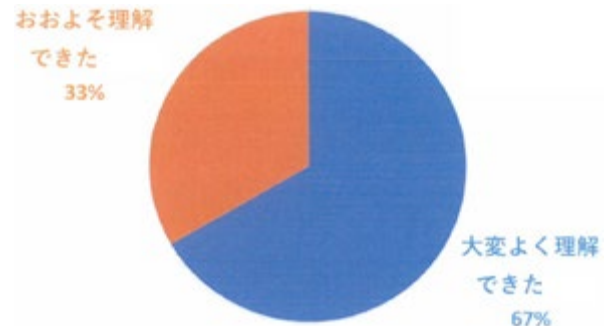
東梅氏はワーカーズコープ入団後、人が自然にふれ合い過ごせる場所を作りたいと考え、2016年に通所介護、学童保育、日中一時支援事業の共生ホームを開所された。

地域のサロンや子ども食堂などにも取り組み、“支援する場所”ではなく“お互いが支えあえる居場所”として、震災後どのように場所づくりをされてきたのか等についてご紹介いただいた。

具体的には、困りごと（子どもを預ける場所がない、公営住宅の集会所が開いていなくてコミュニティが薄い等）が地域の取り組み（子どもを預かることを仕事にする、サロンを開いてお年寄りも参加いただく等）につながった事例、また、実際にどう対応されてきたのか（震災後5年目以降、ボランティアや寄付金・補助金で活動する組織の撤退が続く中、自ら収入を得て、「仕事」を軸に活動することを決められたこと）をお話いただいた。

震災前もあった地域の課題が震災やコロナ過で露わになったこと、また、地域の未来は自分たちで考えていくことを、そして、「誰も取り残されない地域にするためには誰もが“支えられる”だけでなく“支える”側にもなれたら。お互いに助け合える地域になれば、特別何かサポートや居場所を作る役割がいらなくなる。それが理想の形。共生ホームという居場所が、そのきっかけを作る点となれば」とお伝えいただいた。

◆ 受講者アンケート結果



- 行政等大きな組織では気づけないことに目を向け、それぞれの人たちの困りごと等を気づくことの大切さを痛感。こういった取組が、これからもっと必要になってくるのではないかと、また、自分も困りごとに目を向けられるようにできたらと思った。
- 市町村職員として、あらためて「共生」社会の大切さ、それを実現する大変さを感じた。
- 地域密着型で変に役割分担（縦割り）していないからこそ、自然と人が集まってくるのだろう。
- 地域を成り立たせるために雇用創出することは非常に有意義な活動である。人口減少が進んでいる中で、働く人に直結する子育て分野の重要性を認識されての活動を進めていくことは、地域活性化を可能にするファクターだと感じた。
- 一人じゃ解決できないことも、周りに相談してみれば解決できることがあるかもしれない。日頃から仕事でもプライベートでもお互い相談できる環境を作っておくことが大事だ。
- 震災からの復興がきっかけではあるが、全国どこでも同じようなコミュニティの危機は抱えており、男女だけでなく子どもから障害者まで多様な人が共に寄り添える場所を作ることは大切と感じた。共同参画を大々的に謳わなくても、地域の一人一人が地域のために何か役に立つ、「お互い様」こそ本当の目指すべき社会だと感じた。
- 防災の中での男女共同参画の視点をこの機会に学べて良かった。